

平成奇譚集

崖

諏訪青樹

目次

崖

第一話	四万十川	7
第二話	飛翔	11
第三話	富岳一景	15
第四話	シー・イズ・パワフル	17
第五話	風	23
第六話	安達太良山	27
第七話	星のめぐり	31
第八話	最期の雨	35
第九話	乗鞍岳	39
第十話	奥多摩湖	43
第十一話	桂林満月	47
第十二話	江戸川	53
第十三話	三十三間堂	57
第十四話	イン・ザ・アメリカ	61
第十五話	パワースポット	67
第十六話	オリオン	73
第十七話	ラベンダーガール	77
第十八話	ステラとラテス	81
第十九話	レンブラントの偽画	85
第二十話	家族	89
第二十一話	桜	93
第二十二話	弁慶	97
第二十三話	約東	101
第二十四話	王朝	105
第二十五話	演技	109
第二十六話	精度	113
第二十七話	長崎軍艦島	117

第二十八話	安土城……………	121
第二十九話	結衣、待つてくれ……………	125
第三十話	夕暮れ……………	129
第三十一話	バルテュスの少女……………	133
第三十二話	ストロベリー・クラッシュ……………	137
第三十三話	洋館……………	141
第三十四話	ライフワーク……………	145
第三十五話	鳩……………	149
第三十六話	香り……………	153
第三十七話	エキストラ……………	159
第三十八話	居候……………	163
第三十九話	根津権現の女……………	167
第四十話	橘かおるさんですか？……………	171
第四十一話	五十音で言える……………	177
第四十二話	そんなんでもいいのか……………	183
第四十三話	こんなものがなんだ……………	189

第四十四話	アウトバーン……………	193
-------	-------------	-----

鳴虫山……………	197
----------	-----

琥珀の月……………	225
-----------	-----

二階……………	249
---------	-----

再生……………	263
---------	-----

崖

第一話 四万十川

小舟に乗っているのは、私と船頭のふたりだけである。
艚を漕ぐ音だけが川面をわたった。

この清流を、最後に見たかった。

秋の彼岸の墓参りを済ませて、今ここにいる。

「お客さん、暗くなってきたんで、あがるが、今度はゆっくり来なされ」
たしかに、無理をきいてもらった。

夕暮れが滅法はやく感じられる。

きのう、余命半年と宣告された。妻にも言っていない。もう何年も前から喉が詰まるよ
うな感覚があつて、声も出にくかつた。癌だ。
リンパ腺にも転移していた。

過酷な職場で二十年働いてきて掴んだ、ささやかな幸せを日々楽しんでた矢先だった。

「ああ、なんてこった」

透明な水底に吸い込まれるような感覚を覚えながら呻いた。

「お客さん、どうなすった」

船頭も艀を漕ぐ手を止めて、真顔で訊いてきた。

「いや、なんでもない。ちょっと酒に酔った」

私は、自棄で上着の内ポケットから取り出したウイスキーの小瓶の残りを飲み干した。

……一歳の娘だ。冬で厚着している。仕事から帰ると、玄関で待ちかまえたように駆け寄ってきた。私に抱きつこうとしているのだ。危なっかしい。後ろで妻が微笑んでいる。……

ああそうだ、私にはまだすべきことがあるんだ。

「船頭さん、あした東京に帰るんだ。対岸に川えび料理のおいしいのを出してくれる宿はありますか」

私は今後半年間のことを考え始めていた。
私の残った命を、精一杯輝かせるためになすべきことを。
この対岸で。